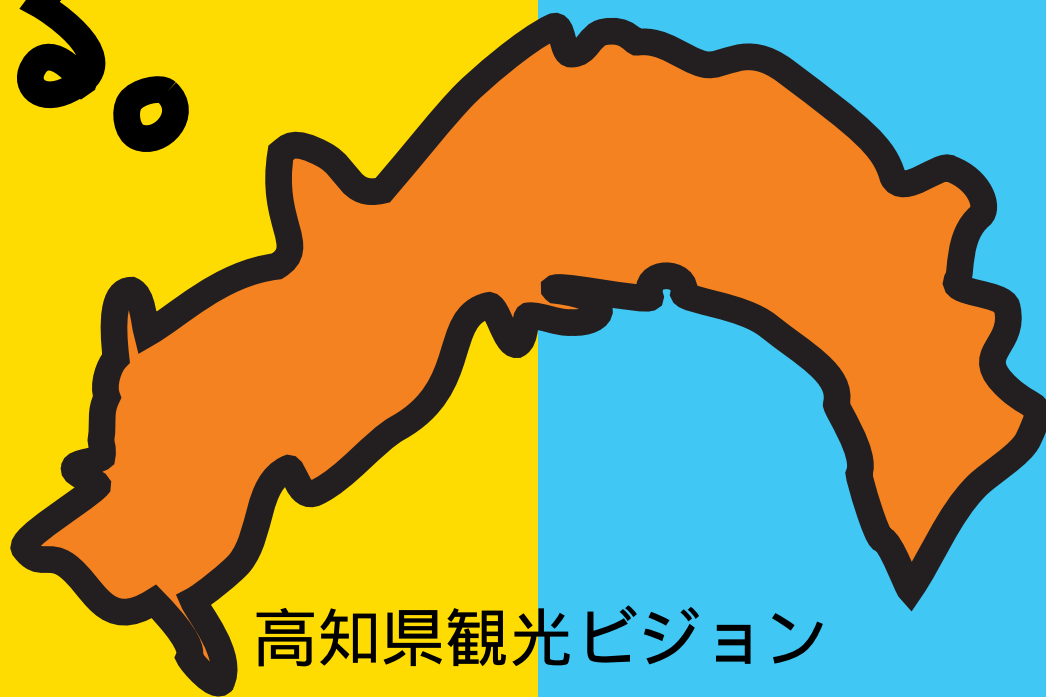


光をあて、

光り輝き、

光を飛ばす。



高知県観光ビジョン

平成17年3月

高知県

# 目次

第1章 高知県観光ビジョンの基本的な考え方	
1. ビジョン策定の趣旨	3
2. 観光をとりまく状況	4
3. 計画期間	5
4. 実施状況の報告	5
第2章 高知県観光ビジョンの基本理念	
1. 観光ビジョンの基本理念	7
2. ビジョンの推進体制	9
第3章 基本方針と取組み	
1. 観光資源の保護・発掘・育成の取組み	11
2. 食文化の伝承、食の魅力を生かした取組み	13
3. 地域の産業と連携する取組み	15
4. 観光施設、観光サービス施設、交通基盤等の整備を促進する取組み	17
5. 生活環境の美化、景観保全の取組み	19
6. 観光ボランティア等の育成、確保の取組み	21
7. 学校教育、社会教育における学習機会の確保の取組み	23
8. すべての人にやさしい観光地づくりへの取組み	25
9. 観光情報の発信、国内外からの誘客を促進する取組み	27
10. 四国4県の連携を促進する取組み	29
第4章 地域別観光ビジョンの概要	
1. 東部地域 地域を磨いて花を咲かそう 高知東海岸100物語 -	31
2. 南国・香美地域 「あなたも一日地元民」～地域の暮らしと文化をタシムしくみづくり～	33
3. 嶺北地域 嶺北グリーンツーリズムの展開	35
4. 中央地域 「土佐人」をテーマとした観光	37
5. 仁淀川地域 山・川・海をまるごと体験	39
6. 高幡地域 心からのもてなしのあるところ	41
7. 幡多地域 人に出会い・人が育つ観光を目指して	43
第5章 県としての目標	47
第6章 次の5年間に向けて	49
資料	51

# 第 1 章

高知県観光ビジョンの基本的な考え方

# 1. ビジョン策定の趣旨

90年代から続いている不況に大きく影響され、我が国の観光は伸び悩んでいます。今後も少子・高齢化が進むと予想され、社会経済に影響を及ぼすとみられています。一方で、高度情報化の進展、交通の高速化と多様化、労働時間の短縮や余暇時間の増大などが進んできていることによって、国民の生活スタイルの多様化や個性化も進んできています。観光にも多様化と個性化が求められてきていると言えます。

観光によって交流人口が増大することは、観光産業のみならず、農林水産業、製造業等の幅広い分野にわたって地域の経済への波及効果をもたらします。そうしたことから、観光を地域に密着した総合産業として育てていくことが求められています。そして、観光産業をニーズの多様化や個性化に対応した地域の総合産業として育てていくためには、観光産業に携わる者だけではなく、県民も含めた一体となった体制での取り組みが必要になります。

こうしたことをふまえて、昨年8月に「あったか高知観光条例」が公布されました。条例の前文に『高知県を訪れる人々と地域の人々との心が触れ合う交流を拡大するとともに、観光を地域の産業として更に発展させていくためには、これまで以上に地域の人々がわがまち、わがむらの魅力を見つめ直し、自信と誇りの持てる個性豊かな観光地づくりを進めていくことが必要です。高知県が「観光立県」を目指すための基本的な考え方と方向性を明らかにすることにより、広く県民が理解を深め、共通の目標と認識の下に、一人ひとりが観光振興の担い手であるという意識をはぐくむことが重要です。』とあります。「人々の交流」、「地域の産業としての観光」、「地域の魅力を見つめ直す」、「個性豊か」、「一人ひとりが担い手」ということがこれからの高知県の観光にとってキーワードとなります。

「観光ビジョン」は、この「あったか高知観光条例」をふまえて策定されています。高知県がめざす観光の将来像を、広く県民から意見を募り、議論を深めながら策定することにより、県民一人ひとりが「観光振興の担い手」であるという意識の醸成を県民運動的に盛り上げることを目指しました。同時に「観光ビジョン」を実行していくことによって、県全体のホスピタリティの向上を図り、リピーター客を増やし、観光入込客の増加を図ることをめざしています。

この「観光ビジョン」を、県、市町村、県民、観光事業者、観光関係団体が「協働」して実践していくことが、「持続する観光のまちづくり」の実現につながるものと考えます。

## 2. 観光をとっまく状況

### 社会環境の変化

我が国の総人口は、2006年ごろをピークにしてそれ以後は長期の減少過程に入ると予測されています。同時に早いスピードで高齢化が進んできており、今後一層高齢化が進むと予想されています。この少子・高齢化の進展は社会経済にも大きな影響を及ぼすとみられており、今後も経済の低成長が続くと考えられています。

一方で高度情報化が進んできており、ITの革新とその普及は社会経済を大きく変化させる可能性を持っています。また新幹線、高速自動車道、航空路等の整備が進み、交通の高速化と多様化が着実に進められてきています。これによって、移動時間の短縮と移動手段の選択の幅が広がってきています。そして働く場でも、週休二日制の普及、祝日の増加、年次有給休暇の取得促進などにより、労働時間の短縮と余暇時間の増大が進んできています。

こうした余暇時間の増大に生活水準の向上などが加わって、物の豊かさから心の豊かさが求められるようになってきました。今後も人々の生活スタイルは多様化、個性化が進んでいくとみられています。

### 我が国の観光動向

日本全体の観光動向をみると、長引く不況、個人消費の低迷が大きく影響して、平成初期から国内旅行の減少傾向が続いています。しかし地域別にみると、山梨県高根町や宮崎県西米良村など観光カリスマの貢献等により、観光客が増加している所も多数みられます。

政府は2003年に「観光立国」を打ち出し、日本を訪れる外国人旅行者を2010（平成22）年に倍増させることを目標に掲げました。そして平成15年に「観光立国行動計画」が決定されました。

この「観光立国行動計画」の主要な柱の一つに「日本の魅力・地域の魅力の確立」があげられています。具体的には、観光振興を成功に導いた人々を選定する「観光カリスマ百選」、先進的な観光交流空間づくりを総合的・重点的に支援する「観光交流空間づくりモデル事業」、都市と農山漁村の交流を支援する「都市と農山漁村の共生・対流の国民運動の支援」、「一地域一観光、全国都市再生、構造改革特区」の一体的推進、「長期家族旅行国民推進会議」の開催、「エコツーリズム推進会議」の開催など、国においても観光立国に向けた取り組みが進められています。

## 高知県の観光動向

高知県は「南国土佐」のイメージで知られ、年間を通じた温暖な気候と自然環境に恵まれていること、坂本龍馬など歴史上の人物を輩出していることなどをベースにした観光を展開してきました。近年では、はりまや橋、桂浜、龍河洞、室戸岬、足摺岬などの既存の観光地以外にも、地域の特性を活かした施設の整備がされています。

年間の観光入込み客数を見ると、1987(昭和62)年の高知自動車道の開通、1988(昭和63)年の瀬戸大橋開通、1992(平成4)年の高速道本州直結などにより、それまで400万人前後で推移していたのが、500万人前後に増加してきました。しかし1992(平成4)年以降は、海外旅行の進展や観光客のニーズの多様化への対応の遅れなどにより、500万人前後を推移し伸び悩んでいます。また、団体旅行が減り、個人・グループ旅行が増えると同時に、交通手段では乗用車の割合が年々増加するなど、本県を訪れる観光客の形態や目的等も変化してきていると見られます。

県内では、スポーツコンベンション等の誘致や四万十川に代表されるエコツーリズムの実施などによる交流人口の拡大に努めてきました。しかしながら、観光の地域間競争は、ますます厳しくなっています。旅行形態の変化やニーズの多様化に対応した、高知県らしい観光のあり方をもう一度考える時期に来ているといえるでしょう。

## 3. 計画期間

本計画の期間は、平成17年度から平成22年度までの5年間とします。

## 4. 実施状況の報告

知事は、観光ビジョンに定められた計画期間の中間年度及び最終年度における観光ビジョンの実施状況及びその成果をとりまとめ、その概要を議会に報告するとともに、これを公表します。

# 第 2 章

## 高知県観光ビジョンの基本理念

# 1. 観光ビジョンの基本理念

「観光」という言葉の語源は、中国の古典である「易経」の「国の光を観る」にあると言われてしています。言い換えれば、その土地にある光を観る、光を放つ地域土着の文化を観ることが「観光」だと言えます。

「あったか高知観光条例」では、観光振興の基本理念を次のように整理しています。

環境  
づくり

地域の特性や魅力を生かし、自信と誇りの持てる個性豊かな観光地づくりに取り組むとともに、観光客へ快適なサービスを提供できる環境を整備すること。

人・心  
づくり

地域の歴史、文化、伝統等を再認識し、観光の振興の担い手となる人を育成するとともに、観光客に潤い、いやし、感動等を与えられるようおもてなしの心を醸成すること。

態勢  
づくり

相互の理解と協力による観光の振興に向けた組織づくりを行うとともに、緊密な連携が保たれた態勢を整備すること。

観光ビジョンはこの基本理念に基づき、「光を観る」ことができるよう、「地域に光をあてる取組み」、「地域自ら光り輝く取組み」、「地域外へ光を発する取組み」を進め、地域を訪れる人を癒すと同時に受け入れる地域が元気になり、地域経済も潤う、「持続する観光のまちづくり」を実現することを目指していきます。

## 高知県が目指そうとする「観光」の方向性

観光とは 光を観る。  
すなわち、光を放つ地域土着の文化を観ること。

「あったか高知観光条例」にもとづき

地域に光をあてる  
取組みを進める

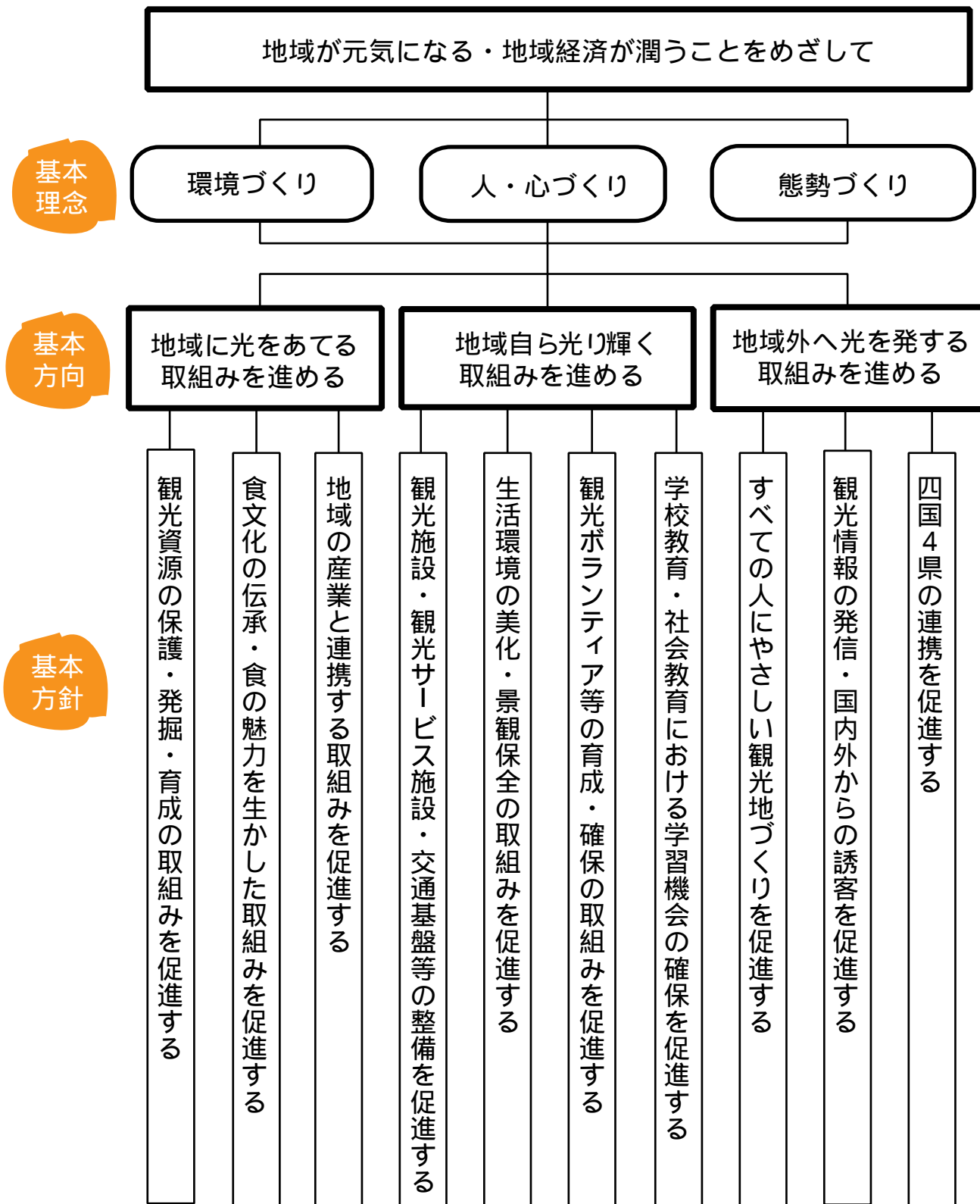
地域自ら光り輝く  
取組みを進める

地域外へ光を発する  
取組みを進める

そうしたプロセスを通して  
地域が元気になる 地域経済が潤う



# ビジョンの体系



## 2. ビジョンの推進体制

### (1) 推進体制について

「地域が元気になる」「地域経済が潤う」という高知県が目指そうとする観光の方向性を実現していくために、県、市町村、県民、観光事業者、観光関係団体が、それぞれの役割を担うと同時に、地域間や主体間が互いに連携をしながら、観光ビジョンを推進していきます。

### (2) 基本的な役割分担

#### 県

観光の振興に関する総合的かつ計画的な施策を策定し、実施します。また、県民、市町村、観光事業者及び観光関係団体が本県の観光に関する共通の目標と認識の下に、相互に連携できるよう総合調整を図ります。

#### 市町村

当該地域の特性を生かした観光の振興に関する施策を講じるよう努めます。また、県が実施する観光の振興に関する施策に協力するよう努めます。

#### 県民

観光立県に対する理解と関心を深めるとともに、地域における観光の振興に関する取組みに参画するよう努めます。また、観光客を温かく迎えるよう努めます。

#### 観光事業者

事業活動を通じて快適なサービスと環境を提供し、観光客の満足度の向上に努めます。また、地域へのかかわりと意義を認識し、地域の他の産業との緊密な連携により地域社会及び地域経済への貢献に努めます。  
県及び市町村が実施する観光の振興に関する施策に協力するよう努めます。

#### 観光関係団体

業界及び業種の枠を超えた連携を図りながら、その事業活動を行なうよう努めます。  
また、自らが担うべき役割や事業目的を認識し、観光情報の発信、観光客の誘致、受入れ態勢の整備等に積極的に取り組むよう努めます。  
県及び市町村が実施する観光の振興に関する施策に協力するよう努めます。

# 第 3 章

## 基本方針と取組み

この章では、観光ビジョンの基本方向及び基本方針に従って、今後5年間の基本的な方向性及び県、市町村、県民、観光事業者、観光関係団体の取り組む内容についてとりまとめました。

## 1. 観光資源の保護、発掘、育成の取組み

# 「モノ・ヒト・コト」をみつけて生かそう

「地域の日常」は「観光客（来訪者）」にとっては「非日常の面白さ」の視点にたって、昔ながらの風景、自然、歴史、暮らし方を、観光資源として活用していきます。そのために、その地域ならではの「モノ・ヒト・コト」の魅力（資源）を生かした「体験型観光」に取り組んでいきます。また、温暖な気候や県内のスポーツ施設を活用したスポーツコンベンションや、豊かな自然や文化を情報発信するためにフィルムコミッションを活用していきます。

### 具体的に進めていくこと

#### ● 地域ならではの体験型観光に取り組もう

- ・ グリーンツーリズムに取り組む団体と連携して、森林を活用した観光プログラムを育成
- ・ 中土佐町の漁業組合との連携により、漁師としての経験を生かした体験プログラムづくり
- ・ 幡多地域の環境学習型教育旅行の体験プログラムに、地域ならではの食材や地域のもてなしの心が伝わる宿泊など、より濃い触れ合いを加えて更にレベルアップ
- ・ 土佐清水市や大月町の遍路道ウォーキングと地域の人々によるお接待を組み合わせた観光メニューの商品化
- ・ 大月町の葉タバコ農家によるコスモス畑を核とした地域触れあい型の観光メニューの商品化
- ・ 宿泊業関係者などが体験型観光のモニターツアーに参加して、地域の取組みに助言を行うなど、地域と事業者とが一体となったプログラムの育成
- ・ 地域から旅行商品を発信し、地元ならではのきめ細かいサービスが提供できる着地型エージェントの機能を持つ受入れ組織の育成と支援
- ・ 高知県全体を一つのミュージアムとみなし、それらを守り育てるとともに、利用を通じて交流人口の拡大や地域の振興をめざす「こうちフィールドミュージアム」の推進
- ・ 農家民宿を育成、支援し、より高付加価値のあるグリーンツーリズムを展開

自然や文化を守りながら活かしていくシステムとして、県内の様々なフィールドや活動の拠点となる施設を自然体験や学習の場とし、またこれらをネットワークで結ぶことで、環境学習や自然体験への気運の高まりに対応するとともに地域振興の契機としようとするもの。

## ④ スポーツ施設を活用してスポーツコンベンションを誘致しよう

- ・プロ野球やプロサッカーのキャンプの継続・新規誘致、プロゴルフの大会開催などプロスポーツ誘致の取組み推進
- ・スポーツコンベンションの積極的な誘致展開
- ・地域をあげたもてなしによるキャンプの継続への取組み支援

## ④ 高知フィルムコミッション( )を活用しよう

- ・NHK大河ドラマ「功名が辻」の放送による高知の観光資源の育成及び情報発信
- ・高知フィルムコミッションを活用した国内や韓国からのドラマ・映画等のロケの誘致

高知県の魅力ある各種の資源を映画やテレビ等の媒体を利用して、国内外に情報発信することにより、より一層のイメージアップと観光客誘致促進、地域の活性化や将来的な映像文化に関する産業の振興を目的に設置。

## ④ 今ある観光資源の付加価値を高めよう

- ・よさこい祭りの一層の充実
- ・「ごめん・なはり線」や「路面電車」を観光資源として生かす取組み支援
- ・「坂本龍馬」や「功名が辻」などテーマを持った観光ボランティアによって案内する観光ルートの検討。また、観光ボランティアの協力を得て、いくつかのテーマにそった県内各施設を組み合わせる検討
- ・「横山隆一記念まんが館」を中心としたまんがによる観光客の誘致
- ・赤岡町から物部村につながる「塩の道」や高知県から愛媛県（高知県内は高知市から梶原町）につながる「龍馬脱藩の道」など、県内各地でのウォーキングイベントの開催など新たな観光メニューの開発
- ・高知市での「まちなか観光」の推進（観光施設や商店街とを、路面電車やバスなどの交通機関、あるいは自転車など手軽な交通手段を組み合わせる散策コースを設定）

## ④ その他

- ・東部地域の「観光・交流」を目的とした100のイベント・食・体験メニューづくり
- ・四季の写真展（ダルマ夕陽やカツオ船団の出航風景など）の開催
- ・四万十川流域の「つるの里」「ほたるの里」づくりの取組み
- ・地域の良さや宝を見い出して育成していく団体に対して表彰や認定を行い、地域の組織づくりを支援

## 2. 食文化の伝承、食の魅力を生かした取組み

# 「ここでしか食べねんもん」でもてなそう

「旅は食なり」という言葉があります。旅の楽しみは、「その地域でとれたものを、その地域の食べ方で、おいしく食べる」ことにあります。

地産地消を積極的に推進するなど、地域に伝わる食文化を伝承するとともに、観光客（来訪者）に対する食の魅力を生かした取組みを進めます。

また、他産業との連携・産地と消費者の連携を進めていくことで、そこでしか味わうことのできない「食」の提供のしかた・もてなしのしかたを工夫します。併せて、地域の美味しい食材を積極的にホテルや旅館へ提供するなど「食」による宿泊施設の魅力づくりについて取り組んでいきます。

### 具体的に進めていくこと

#### ● 食を楽しむ場を工夫しよう

- ・各地域に伝えられてきている「郷土料理」を、その由来や食材情報などとともにお客さんに提供する
- ・海や山の食材を使った料理、地元の伝統料理、「おばあちゃんの味」などの積極的な掘り起こし
- ・室戸の春の味覚満載の「春つげ御膳」など、地域の特性を生かした統一メニューの提供
- ・嶺北の豊富な食材を活用したメニューときれいな星空を組み合わせた商品の検討
- ・地元の酒蔵見学と組み合わせた郷土料理の提供

#### ● 食に関する協働をすすめよう

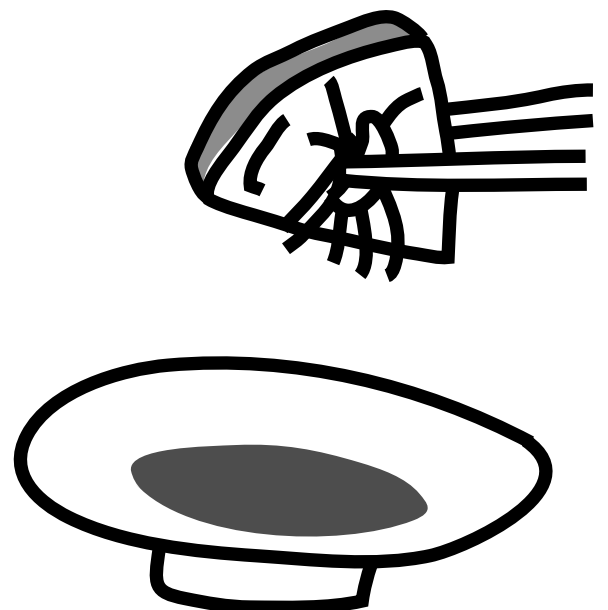
- ・料理人などを中心とするNPO法人などと協働した多様な取組みを進める
- ・地産地消をキーワードとした「おいしい風土ピア こうち」の開催
- ・中村市の宿泊施設や飲食店での薬膳料理の提供の検討
- ・高知県が開発し、高知県内で栽培した酒造好適米を原料として使い、地元酒造会社がお酒を各種パーティーで乾杯する運動を進める
- ・各地域にある農産物、畜産物、水産物、林産物及びこれらを原材料とした加工食品や土佐の地酒、どぶろく、深層水商品、郷土料理など、その地域にあるものを一体的に売ることや提供する仕組みづくり
- ・ホテルでの高齢者向けの料理、低カロリーメニューなど高知の食材を活用した多彩なメニューの提供を検討

● 「ここでしか」「今しか」にこだわって「食」を提供しよう

- ・ 四季を通じて味わえる山、川、海の豊富な食材と地域のもてなしをあわせた、地域ならではのスローフードの提供
- ・ とれたての魚と地元の野菜を組み合わせた食事メニューを漁業体験に組み入れるなど、体験型観光のプログラムの魅力アップ
- ・ 生産者と消費者の交流を促進するためのコーディネート場の創出

● 高知ならではの食の魅力を発信しよう

- ・ 「かつおのたたき」「皿鉢料理」に並ぶような高知を代表する「名物」をつくる
- ・ 須崎名物「鍋焼きラーメン」やメジカの売り込み
- ・ 観光物産展の開催など、他産業との連携を深めることで、地元の食の発信
- ・ 四国4県のそれぞれの食の魅力を生かし、首都圏でのPRやメディア媒体を活用した取組みを促進





### 3 . 地域の産業と連携する取組み

## 皆が「得」する観光にしよう

地域の産業と連携した観光のメニューづくりを進めるとともに、地域の産品や土産品・工芸品等の掘り起こしを行っていきます。それらの情報収集から発掘・販売について、一次産業から三次産業に携わる関係者が連携した体制づくりにつなげていきます。

#### 具体的に進めていくこと

#### ● 県民みんなが関われる仕組みをつくろう

- ・ 地域での取組みがビジネスとして成り立つことをめざした、観光コミュニティビジネスプランの検討
- ・ 地域の人が地域観光資源を発掘し、地域の人が案内するしくみをつくる
- ・ おじいちゃんやおばあちゃんが作り、家庭で消費されている野菜などを、観光客向けの土産や食材として生かす工夫
- ・ 都市との交流を目的にした遊休地活用や地域の農業小学校( )の開催

嶺北地域のめざすグリーンツーリズムの一つとして考えられているもので、農業体験等を単発で行なうだけでなく、田畑づくりから種・稲植え、育成、収穫、作物を味わうことまで年間を通した楽しみ方を提供すると同時に、地元の「農業の達人」から農業技術を伝授することを計画している。また休廃校となった学校の建物を利用して行なうことも考えられている。

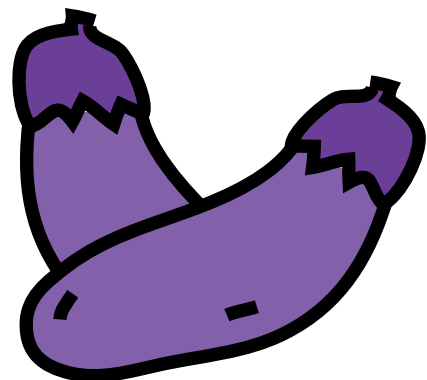
#### ● 地域の産業従事者が関われる仕組みをつくろう

- ・ 和紙、打ち刃物、染め物、焼き物など、地場産品を生かした観光メニューや土産物の開発
- ・ 農林漁業従事者が、その豊富な経験を生かして関われる体験観光メニューを開発する
- ・ 農産物の直販所・販路拡大に向けた取組みの促進と開設の支援
- ・ 深層水ナスなど一次産業と連携した新たな地域独自の特産品づくり
- ・ 地域の産品や土産品・工芸品等の掘り起こしを行うとともに、直販所情報の収集と情報発信



## 🍷 遊・食・泊の楽しい連携を進めよう

- ・幡多地域の環境学習型教育旅行の体験プログラムに、地域ならではの食材や地域のもてなしの心が伝わる宿泊など、より濃い触れ合いを加えて更にレベルアップ（再掲）
- ・宿泊業関係者などが体験型観光のモニターツアーに参加して、地域の取組みに助言を行うなど、地域と事業者とが一体となったプログラムの育成（再掲）
- ・農家民宿を育成、支援し、より高付加価値のあるグリーンツーリズムを展開（再掲）
- ・観光客の「泊食分離」の傾向に対応して、料理・飲食店の組織強化や育成、連携促進
- ・中心商店街や「夜の街」と旅館・ホテルとのタイアップを図るなど、観光客への飲食のもてなし方の検討
- ・観光関係業界の組織強化、観光コンベンション協会への加入促進を図り、観光事業者間の連携強化



#### 4. 観光施設、観光サービス施設、交通基盤等の整備を促進する取組み

## 観光客にとって便利で優しい 施設やサービスを整備しよう

四国横断自動車道などの道路網等の整備を着実に進めるとともに、観光客（来訪者）に安心と充実感を感じてもらうための案内標識などの観光サービス施設の整備についても進めていきます。

また、観光地間の移動を快適なものとするために、二次交通の整備に取り組んでいきます。

### 具体的に進めていくこと

#### ● 便利でわかりやすい取組みを進めよう

- ・ 観光スポットへの案内板や、観光客を誘導する案内板等の整備を促進
- ・ 観光客への観光施設の情報提供を積極的に実施
- ・ 観光ボランティアを希望する旅館・ホテルへ積極的にボランティアを配置していく
- ・ 観光地を巡る鉄道・電車・バス等の乗り継ぎ、時刻表の案内など公共交通体系をわかりやすく案内できるよう検討

#### ● 優しくてホッと安心できる取組みを進めよう

- ・ 快適なサービスを提供するトイレ施設の基準のあり方と認定制度の検討
- ・ 現在ある案内板やトイレ施設をユニバーサルデザインの視点からリニューアル
- ・ 観光施設の震災対策やユニバーサルデザインを進め、安全で利用しやすい施設づくり

## ● 親切なもてなしができるような施設整備を進めよう

- ・ 室戸海洋深層水を活用した高知県東部の新しい交流・健康増進拠点「いやしの里（仮称）」の整備
- ・ 体験型観光などの取組みを後押しするために必要となる施設の整備
- ・ 道の駅・海の駅の充実
- ・ 室戸阿南海岸国定公園内の展望所や休憩所の設置
- ・ 空家や休廃校となった学校を利用した宿泊施設の整備、雨天の場合の活動施設の確保などを行ない、多様な観光客の受入れ態勢の整備

## ● サービスの行き届いた交通基盤を整備しよう

- ・ 四国横断自動車道・高知東部自動車道などの交通基盤の着実な整備を促進
- ・ 観光客の利便性向上や満足度の向上を図るため、観光地間の移動を快適なものにする二次交通（MY遊バス（ ））の整備

高知市内の観光スポット間の移動を快適なものにするため、「高知駅 五台山 桂浜」間に周遊バスを走らせています。

- ・ 「ごめん・なはり線」や「路面電車」を観光資源として生かす取組み支援（再掲）
- ・ 高知市での「まちなか観光」の推進（観光施設や商店街とを、路面電車やバスなどの交通機関、あるいは自転車など手軽な交通手段を組み合わせる散策コースを設定）（再掲）
- ・ 観光施設を巡る統一割引き入場券や公共交通の一日フリー乗車券などの検討
- ・ 「よさこいぐるりんバス」の高知市内周遊観光への活用、「まごころレンタサイクル」のPR及び態勢の充実を図るなどによって、手軽な交通機関の活用を促進
- ・ 主要な観光情報を整理し、積極的な全国PRを展開。また推薦できる四万十川流域の宿等を選定して全国にPR実施の検討
- ・ 幡多観光の宿毛フェリーを活用したコースの提案や周遊チケットの開発
- ・ フェリーを利用したバス旅行を支援
- ・ 国内外からのチャーター便の乗り入れなどの推進



## 5 . 生活環境の美化、景観保全の取組み

# 地域ぐるみで美しい景観づくりをめざそう

山林の保護、広葉樹の植栽、川の景観保護、水質の保全、海岸の清掃など地域ぐるみの自然環境の保全に取り組めます。また、観光地の周辺や道路の沿線の清掃活動や、花を植えるなどの景観づくりに努めます。

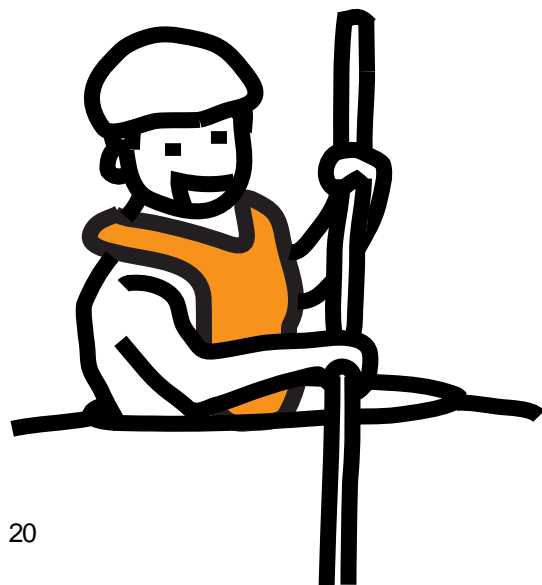
### 具体的に進めていくこと

#### ● 県民みんなで環境保全や景観保護に取り組もう

- ・物部川のこれからを、山・川・海に係る流域の住民や関係団体と一っしょになって考え実践する
- ・観光資源を美しく保つという県民の意識を高めるために、四万十川条例の具体的方策としての環境配慮指針、目標指針、清流基準を策定・実施する
- ・仁淀川の清流保全と利活用に関する検討に向けた取組み
- ・地域の清流保全や景観保護の取組みを地域全体の取組みへと拡大する
- ・歴史を感じる街並、風格のある街並の保全の実施
- ・動物の棲める自然環境づくりに向けた取組み（サインの設置や広葉樹の植栽）
- ・地域を中心として組織的に不法投棄廃棄物の撤去や、不法投棄の防止に取り組んでいる、あるいはそのための組織をつくる場合に、その活動に対して支援の実施
- ・道路の清掃や、道路沿線・鉄道沿線、観光施設等に花を植えるなど環境美化への参加促進

## ● 美しい景観を生かした観光に取り組もう

- ・大野見村（四万十川）やいの町（仁淀川）での岸ツツジの植樹とカヌー下りを組み合わせたイベントによる清流と景観保全の取組みをPR
- ・本山町汗見川地区（吉野川）の景観保全の取組み等の支援
- ・大月町や土佐清水市で進めている遍路道整備の取組みを促進
- ・国の長距離自然歩道6路線の一つとして整備され、高知県を代表する多彩な自然景観や史跡が組み込まれたコースである「四国のみち（四国自然歩道）」の高知県ルートの維持管理
- ・漁村らしい風景のなかでの漁業体験を提供できるように、漁業者、漁港管理者、市町村が一丸となった港の美化（中土佐町上ノ加江）



## 6 . 観光ボランティア等の育成、確保の取組み

# 地域の案内人を育てよう

「高知県観光ビジョン」を県民全体に普及させ、ホスピタリティの醸成を図ります。また、観光ボランティア育成に向けて県民の意識を高めていくことを目指します。

そうした取組みによって、観光客（来訪者）を温かく迎える「おもてなしの心」にあふれた受け入れ体制を整備していきます。また、「体験型観光」を展開していくために必要となる地域の案内人の養成を実施していきます。

### 具体的に進めていくこと

#### ● 地域の案内人を育てよう

- ・ 地域のことを来訪者に語ることでできる案内人（インタープリター、ツアーガイド）を育成し、サービスを提供する態勢づくりを支援
- ・ 自分達の地域をもっとよく知ることやホスピタリティの意識を高めることなどを旨とした、研修等の実施
- ・ 山・川・海についての名人、地域の生活の名人等の登録制など、地域の中心となる人材を発掘、育成
- ・ 都市と農村の交流活動を促進するため、都市農村交流インストラクター及び農家民宿の実践者人材育成の促進

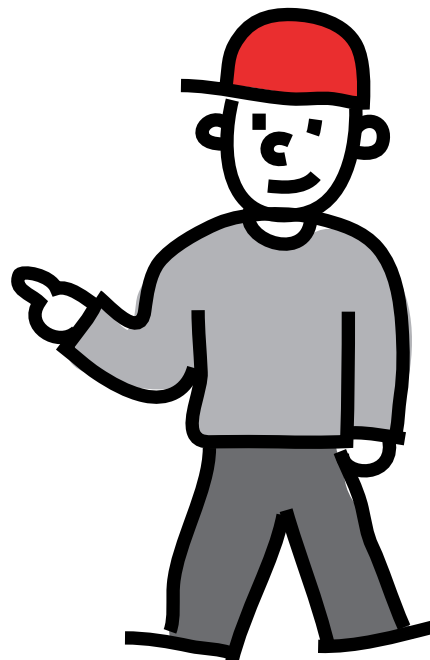


## ● 観光ボランティアガイドを育成し、活動を支援しよう

- ・ 県内の観光ボランティアガイドを組織化し、交流を活発化
- ・ 昔からある言い伝えや民話を掘り起こすなど、観光ボランティアガイド育成へ支援できる活動を促進
- ・ 観光ボランティアガイドの育成に向けて、人材の確保、ガイドマニュアルの資料整備、ガイド養成への講師派遣
- ・ 希望する旅館・ホテルへ積極的に観光ボランティアガイドを配置していくなど、観光事業者との連携を促進する
- ・ 「坂本龍馬」や「功名が辻」などテーマを持った観光ボランティアによって案内する観光ルートの検討。また、観光ボランティアの協力を得て、いくつかのテーマにそった県内各施設を組み合わせる検討（再掲）

## ● その他

- ・ ボランティア活動やNPO活動の広がりを促す支援



## 7. 学校教育、社会教育における学習機会の確保の取組み

# 高知県の自然・歴史・文化を学ぼう

地域の資源を題材として地域の「達人」の話聞く機会を設けたり、地域住民同士の交流を促進するなど、地域において自ら学ぶ機会を設けます。また県立施設の活用や体験型観光を積極的に推進することにより、学ぶ場の機会も提供していきます。

### 具体的に進めていくこと

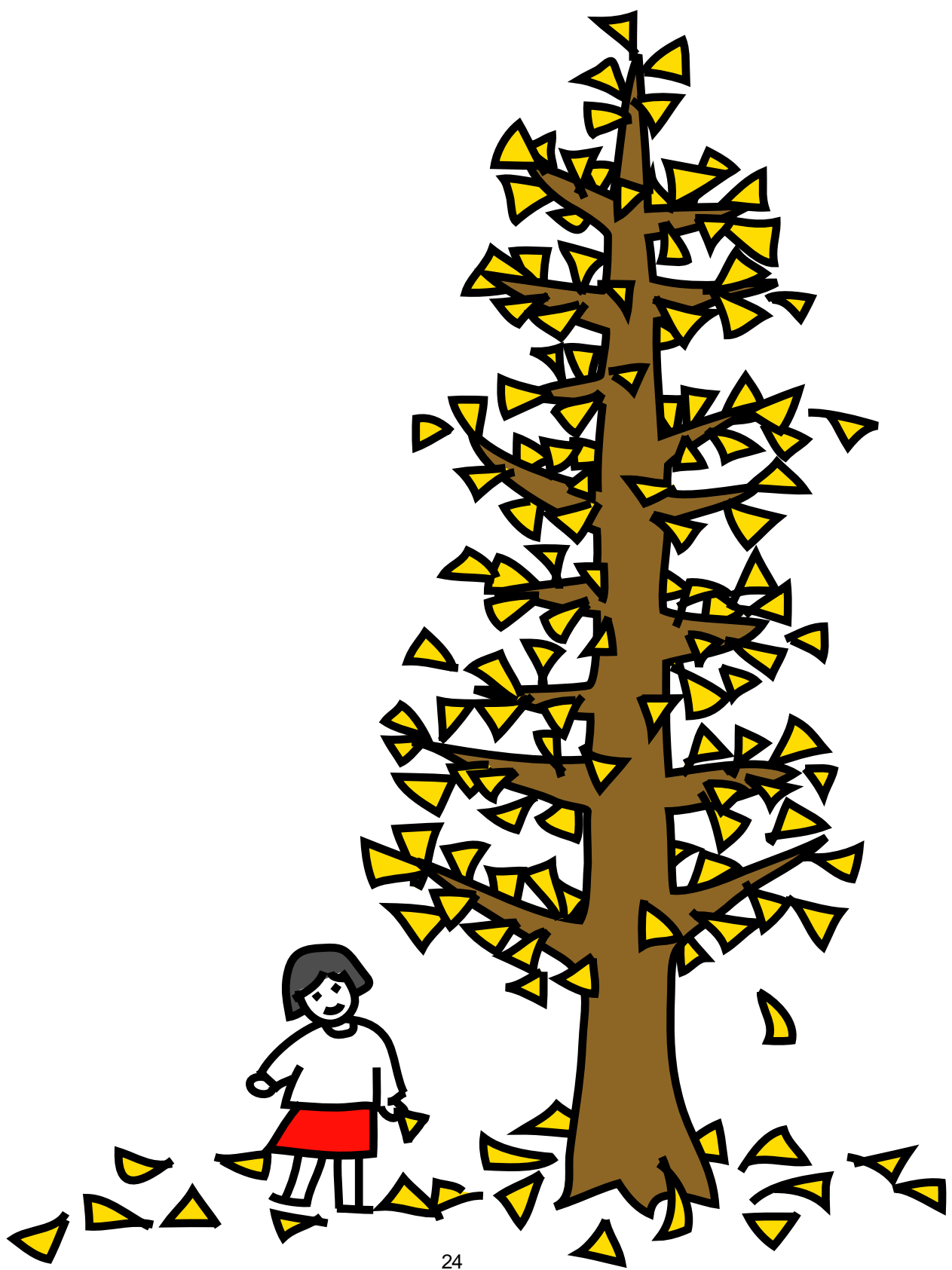
#### ● 地域に誇りを持ってもらう

- ・子どもの時から美術館、歴史民俗資料館、坂本龍馬記念館、文学館、牧野植物園など県立施設に親しむことで、県民みんなが高知県について語れるようにする
- ・地域の観光地に地域の子どもたちにもっと足を運んでもらうようにする

#### ● 地域の文化を知ろう、生かそう

- ・地域の歴史や伝統文化を掘り起していくために、地域の高齢者や達人の話の聞いたり「技」を体験する機会を持つ
- ・地域内の小・中・高生たちに地元にあるものを体験してもらう機会を設け、自分の地域のことを良く知ってもらう場の創出
- ・学校の総合的な学習の時間を活用して、山と海の交流学習事業による都市と漁村の交流促進。また活動を進めるための組織づくりや人材の育成支援
- ・南国市の道の駅におけるゴールデンウィーク臨時観光案内所への高校生の参加など、学校教育と地域の産業（人）との連携
- ・地域の自然・暮らし・文化などを活用した体験型観光のメニューづくりへの積極的な関わり





## 8. すべての人にやさしい観光地づくりへの取組み

# 「居心地が良かった」と 言ってもらえる観光地づくり

案内板や観光案内所、観光ガイドブックやガイドマップ、ホームページなどの整備を行い、全ての人にわかりやすい観光地づくりを目指します。同時におもてなしの気持ちを大切に、地域を訪れる人々を笑顔で迎え、交流を楽しむことができるように、地域ぐるみの受入れ体制の整備を進め、みんなから「高知は居心地がよかった」と言ってもらえる観光地づくりをめざします。

### 具体的に進めていくこと

#### 🕒 居心地のいい施設にしよう

- ・観光施設のユニバーサルデザインを進め、こどもからお年寄りまで利用しやすい施設づくりの実施
- ・点字シールの活用など、利用者の立場に立った施設の改善
- ・（財）高知県国際交流協会と連携して、メニューや館内表示などの多言語表記への対応の検討

#### 🕒 おもてなしのこころを育てよう

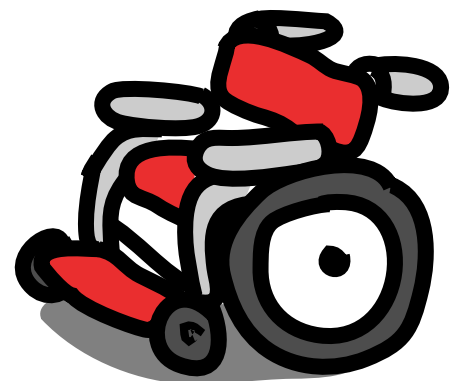
- ・身体に障害のある方を地域ぐるみで受け入れる「高知体感おもてなしツアー」の開催を通じた「おもてなしのこころ」の育成
- ・観光事業者を対象にして、指導者育成を目的としたおもてなし講座や観光客へのアンケート等の実施
- ・ITを活用することによって事業者同士の情報交流を進めることや、接客・マナー・サービスの研修等を行い、もてなしの意識や技術を向上
- ・修学旅行等の受入施設での安全性や接客向上をめざすセミナー等を開催し、従業員のスキルアップと受入れ体制の整備を促進
- ・体験学習や修学旅行での現地学習の内容や進め方について、指導や協力体制づくり
- ・修学旅行に必要なガイドに対応することの検討や、小・中学生、高校生への体験学習等にむけたガイドマニュアルの作成などの検討
- ・地域独自に観光モニターを設け、観光ルートを点検し、再構築することによる観光地づくりの検討
- ・やさしい観光地づくりに取り組み、地域ぐるみの受入れをしている団体に対して表彰や認定を行い、地域の組織づくりを支援

## ● 使い勝手のいいサービスを考えよう

- ・ガイドマップ・ガイドブック・ホームページの一層の充実
- ・主要な観光情報を整理し、積極的な全国PRを展開。また推薦できる四万十川流域の宿等を選定して全国にPR実施の検討（再掲）
- ・観光案内板や観光案内所の設置、特に観光客が多くなるゴールデンウィークやスポーツキャンプ時の臨時観光案内所の設置
- ・観光地を巡る鉄道・電車・バス等の乗り継ぎ、時刻表の案内など公共交通体系をわかりやすく案内できるよう検討（再掲）
- ・視覚障害者に対応できるホームページのデザインの検討
- ・身体に障害がある方が気持ちよく利用できる観光関連施設の情報の集約と提供の検討

## ● 外国からの観光客をもてなそう

- ・今後増加すると予想される外国からの観光客に対応するため、外国語の簡単な会話や外国人へのマナー・サービスの基本などの講習開催
- ・多国語の観光案内板・歓迎板・誘導板やホームページの整備
- ・病院や両替所、通訳などの対応の検討
- ・外国人観光客の受入れに関して、基礎的な知識の習得や語学の研修など受入れ体制の整備



## 9 . 観光情報の発信、国内外からの誘客を促進する取組み

# 文化は観光・観光は文化 情報の質を高めよう

高知の文化を観光情報として発信するとともに、本県への観光客（来訪者）に向けて効果的な情報発信を行なうため、イメージやストーリー性、ターゲットの絞り込みなどを行なっていきます。そのため地域情報の整理を行なうコーディネート機能を確立していきます。

「功名が辻」の放送等、メディアとリンクした情報の発信が本県観光の魅力PRの絶好の機会となることから、フィルムコミッション事業の展開と併せて、積極的な情報発信を実施していきます。また、国内外からの誘客に向けた条件の整備を実施していきます。

### 具体的に進めていくこと

#### ● 質の高い観光情報を発信しよう

- ・NHK大河ドラマ「功名が辻」の放送による高知の観光資源の育成及び情報発信（再掲）
- ・文化情報誌「とさのかぜ」を活用し高知県独自の文化を発信
- ・地域内のイメージシンボルの作成やブランド化に向けての検討を行うなど、情報発信の工夫や広域的な情報網や地域内の体制の整備を実施
- ・多様性のあるパンフレットの作成や一元化、携帯電話を活用した案内システムなど、ITを活用した観光客側に立ったサービスの提供の検討
- ・よさこい祭り等のまつりや地域のイベントの情報発信
- ・高知ファンによる口コミ情報の活用

## ● 「あそこに行きたい！」と思わせる情報を発信しよう

- ・「高知だからこそこんなことができる」という情報を発信し、首都圏及び関西圏からの教育旅行やコンベンション、スポーツコンベンションを積極的に誘致
- ・個人・グループ・修学旅行の誘致を推進するために、体験をメインとした地域の個性が光る観光情報を発信
- ・地域の素材を利用して学校の総合学習のメニューを提供したり、修学旅行を積極的に受け入れるなど、地域内外との交流促進
- ・旅行形態が従来の団体型から個人型に移行してきていることから、旅行会社による個人旅行商品の発信を支援
- ・韓国全羅南道との交流促進
- ・四国4県とJR四国で構成する四国観光立県推進協議会事業による航空会社や大手新聞社との広告や誘客のタイアップ事業の展開
- ・台湾をターゲットにしたトップセールス、現地での商談会、広告宣伝などを行い、台湾からの観光客にも魅力をアピールできる本県単独の旅行商品づくり
- ・韓国・中国をターゲットに現地での商談会、招へいツアー、新聞広告など、四国の情報を一体的に発信し、誘客活動を展開



## 10 . 四国4県の連携を促進する取組み

# 四国4県の魅力の足し算

四国全体に共通するテーマの4県での情報発信や四国東南や西南部など、魅力ある観光資源の組み合わせによる広域観光ルートの検討、確立を図っていきます。また四国霊場八十八ヶ所や四国アイランドリーグなど四国に共通する魅力あるテーマの情報発信や誘客のための事業を共同で実施していきます。

## 具体的に進めていくこと

### 🗨️ 四国をまるごと楽しむ観光メニューを開発しよう

- ・ 四国霊場八十八ヶ所や四国アイランドリーグ、サッカーJリーグ徳島ヴォルティスなど四国に共通する魅力あるテーマの情報発信や誘客のための事業の共同実施
- ・ 平成19年度に「昔なつかしいSL復活」に向けた取組みを促進
- ・ 四国4県のそれぞれの食の魅力を生かし、首都圏でのPRやメディア媒体を活用した取組みを促進（再掲）
- ・ 「龍馬脱藩の道」の観光ルート化に向けた取組みを促進
- ・ 四国4県とJR四国で構成する四国観光立県推進協議会事業による航空会社や大手新聞社との広告や誘客のタイアップ事業の展開（再掲）
- ・ ビジットジャパンキャンペーンにより訪日外国人が増加していることから、台湾・韓国・中国に対する誘客活動を四国4県が一体となって進める
- ・ 吉野川の下流域との交流を活発にするなど、地域の枠組みを超えた交流の促進
- ・ 修学旅行の誘致に向け4県を効率的に巡るルートを検討する
- ・ 四国内のボランティアガイド団体の連携を促進
- ・ 四国西南観光協議会によるアウトドアフェスティバルへの参加など、県を越えた広域観光ルートの情報発信

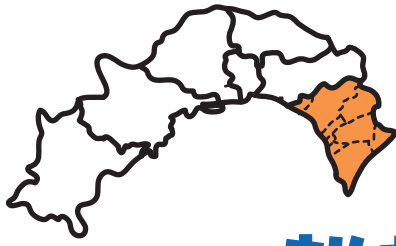
# 第 4 章

## 地域別観光ビジョンの概要

本県の豊かな自然や歴史・伝統文化などの特性を生かした観光のまちづくりを実践していくために、県内を7つのブロックに分け、地域の住民代表の皆様による地域版の観光ビジョン検討委員会を開催し、地域別の観光ビジョンを策定しました。（各地域のビジョンの詳細については、別冊の地域ビジョンをご覧ください。）

今後は、観光ビジョンに基づいて、一人ひとりが観光を振興する担い手であるという意識を醸成し、本県全体のホスピタリティの向上を図り、より地域に根ざした観光振興に向けて取り組んでいきます。





## 1. 東部地域

室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、  
安田町、馬路村、北川村、芸西村

# 地域を磨いて花を咲かそう —高知東海岸100物語—

グリーンツーリズム等による体験型観光・交流の創出と地域の活性化

「暮らしの原点と触れあう旅」をテーマとし、ノスタルジックな旅や自然体感の旅を創出する

地域資源を活用した観光開発

- ・ 100箇所程度の見どころ、イベント、食、体験メニューをつくる
- ・ 東部地域の魅力を発信する
- ・ 実施に向けた組織づくり、ネットワークづくりに取り組む

ビジョンづくり5ヶ条

- ・ 住民が豊かに暮らせる地域であること
- ・ 来訪者が喜ぶ地域となること
- ・ 観光資源を磨くこと
- ・ 高知県東部を広く知らせること
- ・ 広域的な連携、ネットワークをつくること

来訪者に向けて

- ・ まず一つ、自慢の資源を磨いてみよう

観光・交流 100選の基準として

- ・ 大きな感動を育てていこう

地元住民のアクションとして

- ・ 当たり前のことをしよう!  
あいさつをしましろう  
手助けをしましろう  
ゆっくり暮らそう



## 太平洋を望む海岸線

- ・誘導案内看板、サイン類等を設置

## 自然が見える不思議なダルマ太陽

- ・コンサートやイベントの開催

## 海の生き物との感動的な出会い

- ・クジラ・イルカ・サンゴなどを組み合わせたツアー

## 海を眺めながら新鮮な魚介類を食べる

- ・漁師料理等を掘り起こして、地域の食材メニューの開発

## 若者を呼び込むマリンスポーツ

- ・体験や全国・国際イベントの誘致

## 日本一のアユが棲む清流

- ・来訪者が気軽に川遊びができる体験エリアに

## 林業が華やかな時代の遺産《森林鉄道》

- ・史跡や軌道等の調査と整備に取り組む

## 森に残る野根山街道の歴史

- ・パンフレットや散策地図等で街道ルートを紹介

## 自然と文化に癒しを体験する遍路道

- ・ルートの整備やウォ・キングイベントなどの開催

## 地域の息づかいが残る昔ながらの町並み

- ・町並みの案内

- ・空き家、空き地、空きスペース活用

## ゆのすを使った田舎寿司を食べる

- ・ユズを使った地域内の料理を商品化

## 全国一のナス

- ・ナスを使った料理やイベントの開催

## 深海からの贈り物《室戸海洋深層水》

- ・高知県東部地域の特産品、土産品として販路を開拓する
- ・高知県東部の新しい交流・健康増進拠点「いやしの里（仮称）」の整備

## 田舎にフランスの香りあふれるモネの庭

- ・周辺観光地との連携促進

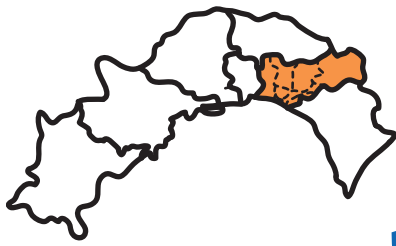
## 高知県東部の夢を乗せて走る「ごめん・なはり線」

- ・鉄道と一体となった東部観光モデルコースの設定

## ボランティアホリデーを受け入れる地域に

- ・都会から訪れる利用者のニーズと受入れる側のニーズをコーディネートする人材を育成

東部地域に伝わる人・モノ・建物・暮らしの知恵や食文化、海・山・川で育まれた自然を磨くことによって、暮らしの原点と触れ合うことができるノスタルジックな旅や自然体感の旅を提供する。



## 2. 南国・香美地域

南国市、土佐山田町、野市町、赤岡町、香北町、  
香我美町、夜須町、吉川村、物部村

# 「あなたも一日地元民」 ～地域のくらしと文化をタノシムしくみづくり～

地域には多彩なタカラがある。それらを足しあわせれば魅力的な旅のプランをたくさん考えることができる

「タノシムチカラは地域のタカラ」

- ・ 地域の人が地域で楽しむことで、地域が元気になる

「地域のタカラをおすそわけ」

- ・ 地域の日常は、来訪者には非日常。地域のタカラに触れることが観光  
地域のタカラを他所から来る人に味わってもらおう楽しみ

「あなたも一日地元民」

- ・ 外から訪れる人に、地域の顔や日常の暮らし方が見えるしくみづくり  
(魅力的な情報の発信、旅の満足度や質を高める工夫)
- ・ 「ようきたね」のおもてなし
- ・ 「一日地元民」を笑顔で迎え、交流をタノシムココロ、おもてなしの  
気持ちを大切に

「楽しい・美味しい」と言ってもらえたら、地域はウレシイ！ 元気になれる！



取組みを一步前に進めるためには、「コーディネート役」が必要！

**【旅のおすすめプラン案】**

語り部のうんちくにくっすり酔う

- ・地元のおんちゃんおばちゃんのうんちくを聞いてから体験する

しみじみお花DEお茶会・宴

- ・お花の名所を一年かけてめぐってみる

お祭り参加バージョン

- ・いろんなところのお祭りを見に行くのもたのしいけど、参加してしまえばすっかりあなたも地元民

遊び学ぶ体験

- ・地元の人々の生活にふれる体験（ユズを採り、絞る体験や長太郎貝を漁師と一緒に磨く体験といった地域の暮らしにふれあう体験。地域の職人と出会う体験等々）。これこそ一日地元民。体験型修学旅行にもオススメ

土佐の日本一、世界一めぐり

- ・全国的に広まっていないもの。そこにしかなくて「ここに行ってきた」と言えるモノ

**【旅のコーディネート組織】**

南国・香美「旅の福袋」楽会の開設

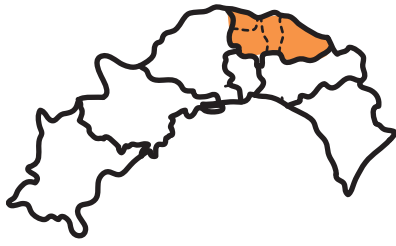
**【役割】**

- ・情報の整理役 情報の発掘、情報の発信
- ・人とメニューの仲人役 観光の御用聞き、観光の手配
- ・地元間の世話役 質を上げるためのサポート、学習会や交流会の開催

**【お試し企画「旅の福袋」の実施】**

- ・各地域のタカラを個別ではなく、足しあわせて魅力をアップする企画をモニターツアー形式で一年間かけて行う
- ・コーディネート組織としてのあり方、県や関係機関との連携のあり方について動きながら考えていく

地域のタカラである「モノ・ヒト・コト」を活用した、住民主体の活動が広がることにより「着地型の旅のメニュー」の提案、実践が行われている。



### 3. 嶺北地域

大豊町、本山町、土佐町、大川村

## 嶺北グリーンツーリズムの展開

「交流・連携による自立的な地域と人づくり」

「嶺北グリーンツーリズムの多様な展開」

「嶺北住民が描く将来像」

- ・人のつながりを大切にして、他の地域の人との交流がもっと盛んになる地域にしたい
- ・自分たち自らが行動する地域をつくりたい
- ・森と水の恵みを生かした地域にしていきたい
- ・共に支えあって生きていける地域にしたい

「可能性の広がる嶺北地域」

- ・観光の形態は団体型から個人、グループ型にシフト
- ・立地を生かせる「四国のど真ん中」「吉野川の上流域」
- ・豊かな自然と歴史の中で育まれてきた生活、文化
- ・魅力のある人たち

「嶺北グリーンツーリズム」の目指すもの

- ・「自然と歴史と暮らしを活かして嶺北の "元気" をつくる」
- ・嶺北グリーンツーリズムを通じて、嶺北を好きになってもらいたい

「嶺北を好きになってもらうための 5つの楽しみ方」

- ・自然を楽しむ
- ・食を楽しむ
- ・農林畜産業を楽しむ
- ・歴史を楽しむ
- ・ものづくりを楽しむ

こんなことも大事

- ・リピーターを育成して、他の人もいっしょに来てもらうことをめざそう
- ・「業」として成り立たせよう

日帰りメニューを増やしていこう

- ・汗見川を楽しむ（川遊び・そば打ち体験・地域との交流）

今あるものをつなげて新しい魅力をつくろう

- ・句碑巡りと嶺北食材によるフランス料理を楽しむプログラム
- ・水のふるさと訪問（早明浦ダム・カヌー・ゴムボート）
- ・きれいな星空と嶺北牛を楽しむ（ゆとりすとパークのコテージ）
- ・大座礼山ブナ原生林とスローフードの旅
- ・吉野川を遊びつくす

土地や施設の有効利用をはかろう

- ・嶺北で農園のオーナーに（遊休地の活用）

宿泊も可能なメニューをつくろう

- ・嶺北でゆっくりすごすお正月（餅つき・スキー・神楽など）

メニューをつなぎ合わせて本格的なグリーンツーリズムをめざそう

- ・汗見川農業小学校（農業とその生活を知ってもらう）
- ・一本の木からの学校（木から製品になるまでの学習）

よるこんでもらえる「おみやげ」を考えよう

できるところから始めよう

- ・今行なっているメニューをもとに、日帰りメニューを増やす。宿泊できるメニューをはじめ

- ・農泊をはじめ

- ・情報発信を考える

情報のシステムを整えよう

- ・情報のネットワーク、人のネットワーク（ツアーガイド）、情報拠点の整備（道の駅「土佐さめうら」・JR大杉駅）

宿泊施設を確保しよう

- ・農泊、空家の利用、休・廃校となった学校（本山町沢ケ内小学校）の利用

「嶺北ツーリズム研究部会」を続けていこう

「（仮称）嶺北ツーリズム企画」を発足させよう

休・廃校になった施設等の活用や吉野川に代表される豊かな地域の資源をつなぎ合わせた『嶺北グリーンツーリズム』による交流がなされている。



## 4 . 中央地域 高知市

# 「土佐人」をテーマとした観光

まっすぐな人、あったかな風土の協働文化圏（「土佐人の人づきあい」とあったかな風土が織りなす文化ゾーン（圏））

### 「ビジョン策定における基本認識」

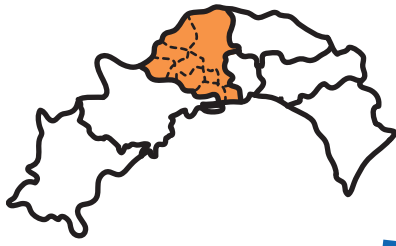
- ・「土佐人」をテーマにした観光ビジョンを策定  
「土佐人の自慢」（モノやコト）「土佐人の想いがこもる」（場所・時間・空間）「土佐人の心意気にふれる」（さまざまな機会）
- ・「地域戦略」を織り込んだ観光ビジョン  
「地域づくり」「地域の総合力」として新しい発展の「芽」
- ・「新たな気づき」を持つ観光ビジョン  
「地域の現状や将来に対する何らかの気づき」を提案する

### 「四つの視点から考える展開プラン」

- ・「顔」を創る  
「次の顔」として期待できる。成功事例として、先駆けとなるもの
- ・「ルート」を創る  
さまざまな地域資源をつなぎ、魅力を高める
- ・「人」を創る  
さまざまな交流シーンで、多様な対応やもてなしができる人づくり、訪れた人との「関わりの接点」を広げる
- ・「便（びん）」を創る  
公共交通が充実していない地域で訪れる人たちの移動を支援する

- 「顔」を創る
- ・「セカンド・ツーリズム」の推進  
「高知と友だちになる」-密度の濃い交流
  - ・「土佐流もてなし」文化の事業化  
「手」でつくる店、「手」でもてなす宿、クラブツーリズムの展開、高知市中心部への「直販市場」出店展開、「市内発、宵の口鏡川もてなしツアー（例えば、鏡川上流域のヒメホテル鑑賞ツアーと食の組み合わせ）」展開
- 「ルート」を創る
- ・「まなび型歴史観光」の推進  
「歴史を学ぶウォーク」展開（「龍馬脱藩の道」等）、  
観光モニターによる観光ルート定期点検展開、「風格の漂う街」  
エリアのネットワーク化
- 「人」を創る
- ・「とさ・つれびとガイド」の意識づくり  
「とさ・つれびとガイド」の意識、もてなしづくり
  - ・「総合学習」との連携  
子どもたちの案内体験
  - ・イベントを活用した人づくり  
観光キャンペーンを成功に導く人づくり、組織づくり  
NHK大河ドラマ「功名が辻」のノウハウの蓄積
- 「便」を創る
- ・「ぶらり観光」の推進  
路面電車、ぐるりんバスによる観光スポット巡り、ぶらり観光の  
提唱とPR

従来からの観光資源の一層の磨きあげと「まちなか観光」の推進や旧土佐山村・鏡村の「自然や食」などが加わることにより、来訪者に魅力のアップと活力のある中央地域のよさを実感してもらえる地域。



## 5 . 仁淀川地域

土佐市、いの町、春野町、佐川町、越知町、池川町、日高村、吾川村、仁淀村

# 山・川・海をまるごと体験

仁淀川地域にきて良かった！と思ってもらえるように  
仁淀川地域のお得意さんづくりに向けて

「仁淀川地域には意外と多くの観光資源がある！」

- ・ 仁淀川地域の「お得意さん」をふやす
- ・ 本地域の観光スポットの類型
  - 周遊型観光スポット
  - 体験型観光スポット（自然体験・生活文化体験・地域維持活動体験）

「都市部のすぐ近くにある！」

- ・ 都市部の隣にあり、交通も便利な仁淀川地域
  - 都市部に隣接しながら、豊かな自然を基軸とした様々な観光スタイルが実現できる。
- ・ 宿泊量の小ささは都市部でカバーできる
  - 高知市内の宿泊施設との連携による修学旅行の誘致も可能
- ・ 宿泊施設は、質を高めるチャンス
  - 新たな客層の開拓やリピーターにより、仁淀川地域での宿泊も進む

「情報がない！」

- ・ 観光情報過疎の仁淀川地域
  - 観光に関するホームページやガイドブックの整備の検討
- ・ 観光スポットが「点」で終わっている
  - 山・川・海の観光スポットをつなぎ合わせた観光ルートづくり



ひとづくり 受入れ体制を整えるために

- ・仁淀川地域観光フォーラム（仮称）を立ち上げる

知らせる より多くのお客さんに来てもらうために

- ・積極的な情報発信

みがく 観光地域としての磨きをかけるために

- ・観光スポットの魅力UP
- ・山・川・海の拠点づくり
- ・新しい体験型プログラムとルートの検討

ためす 具体的な問題点を把握するために

- ・仁淀川 山・川・海まるごと体験修学旅行

つなげる いつまでもお客さんに来てもらうために

- ・県内観光地とのネットワークづくり
- ・観光のコーディネーターとしての機能
- ・計画的な土地利用の誘導

仁淀川地域観光フォーラム（仮称）ですすめること

- ・地域内の観光スポット調査
- ・農泊の体験、実験
- ・観光関連の取組み発表会
- ・観光コミュニティビジネスプランの検討

情報発信

- ・ホームページとガイドブックの整備
- ・ホームページやガイドブックとリンクした現地案内の仕組みづくり

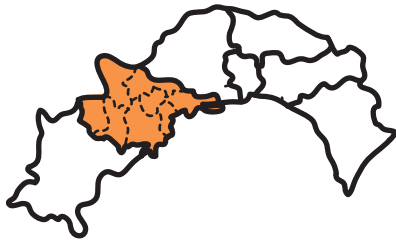
仁淀川関連の環境・観光に関連する政策の統一に向けた働きかけ

修学旅行誘致に向けたモニタリング調査、積極的な営業

県内の他の観光地との連携、行政

- ・（財）高知県観光コンベンション協会との連携

仁淀川地域の山・川・海を活用した広域的なつながりのある観光メニューが提供され、修学旅行などの受入れ先として体制が整備されている。また、高知市とも連携がとれた観光地がつくられている。



## 6 . 高幡地域

須崎市、中土佐町、窪川町、大正町、梶原町、津野町、大野見村、十和村

# 心からのもてなしのあるところ

地域に豊富にある「体験型観光交流の種」を生かす  
高幡地域全体の官民の連携で、体験交流型の観光需要を受け入れる

「高幡地域の特性」を活かす

- ・穏やかなもてなしの心、人情がある
- ・春夏秋冬、四季を通じて味わえる山・川・海の豊富な食材がある
- ・春夏秋冬、四季を通じて楽しめる山・川・海の自然がある
- ・春夏秋冬、四季を通じて自然に溶け込んだ歴史・文化がある

今後の3つの改良点

- ・住民意識の向上
- ・観光商品力の向上
- ・交通アクセスの向上

住民の心からのもてなしのある、交流による地域の元気づくりを目指す

- ・山・川・海の変化に富み、豊かな自然とそこに住む住民のありのままの生活を魅力にして、高幡地域を元気にする

「高幡地域の魅力ある生活とは」

春夏秋冬、四季を楽しみながら生きていく

何をやっていても楽しみを感じられる

山・川・海の中でありのままに生活する姿

おじいちゃん・おばあちゃんがいて、語りがあり自然に暮らす、知恵のある生活

自然をゆったりと楽しむ。一ヶ所でじっくり遊ぶ。読書をしたり一日中ボーッとしたり

毎日の食材を自分で育て、自分で採って、料理をして食べる

春には山菜採り、夏は釣り、秋はイノシシ、四季それぞれの暮らしアユ、ウナギを釣って捌いて食べる。コンニャクを作って食べる。

自然の中で風呂を沸かして入る

無理をせず楽しみながら収入が得られる。趣味が仕事であれば一番いい

決して強制をされないで、自分で好きな仕事を見つけられ、続けられる。人に悦びを教えられる

日の暖かさを感じ、夜の静けさを感じ、三度の食事を家で取り、家で寝るあたりまえの生活

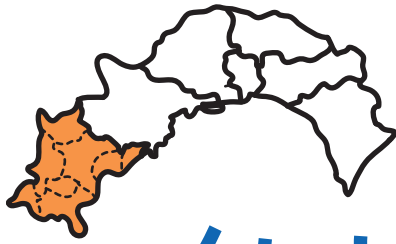
## 「主役は住民。見せる地域の底力」

数多くの体験メニューや地域資源、そこに住んでいる人たちの「地域力」を動かせる先導役（コーディネーター）の創出

今からこんなことに取り組んでいきます

- ・道路沿いを花でいっぱいにしましょう
- ・知人に接するように気軽にあいさつをしましょう
- ・各市町村単位で交流を先導するコーディネーターをつくろう
- ・四万十川の源流上流域である高幡地域全体で連携するネットワークをつくりだそう
- ・農山漁村の体験交流を担う女性リーダーを育成しましょう
- ・体験交流の指導者を養成していこう
- ・経験豊富な高齢者の力を借りよう
- ・県事業や企業活動と積極的に連携を図ろう
- ・受入れ情報や交通アクセス情報、広報活動の窓口を一本化し切れ目のない情報発信を行おう
- ・体験型修学旅行を受け入れよう
- ・休校、廃校になった学校施設などを交流施設に転用していこう

地域の豊富な資源を活かした体験型の観光メニューにより、訪れた人達との交流が盛んに行なわれている。来訪者を「心からのもてなしのある」地域ぐるみで、受入れる態勢づくりが進んでいる。



## 7. 幡多地域

中村市、宿毛市、土佐清水市、佐賀町、大方町、  
大月町、三原村、西土佐村

# 人に出会い、人が育つ観光を目指して

自然や自然の恵み、人々の暮らし、あたたかな人のもてなしによって、様々な感動に出会い、感受性が豊かになる

「幡多観光の抱えている課題・問題点」

- ・広域的な観光PR活動、総合的なホームページサイト
- ・観光客誘致のための観光窓口の一本化
- ・幡多広域と市町村観光協会との連携が不十分
- ・通過型の観光になっている地域がある
- ・オフシーズンの対策が不十分、夏場に集中
- ・施設型観光の低迷と荒天時のメニュー開発、四万十川・サンゴなど環境問題
- ・観光ルートとしての交通機関の活用

「今後の幡多観光で生かしていきたいもの」

- ・開発が遅れたゆえに残った豊かな自然
- ・自然に育まれた産業と暮らし・生活・文化を築きあげてきた人

目指すべき方向性について

- ・「無理のない自然で持続可能な観光地づくり」
- ・みんなで幡多の良さを再認識し、訪れた人におすそわけ！
- ・「黒潮文化に出会うまち」  
様々な感動に出会い感受性が豊かになるところ  
地域の自然、暮らし、人のあたたかさに出会う「生活の旅」

大切にしたい考え方

- ・自然を大切にする
- ・自分たちができることから始める
- ・地域にあるものの価値を知り、地域を好きになる
- ・地域にあるものを生かす
- ・人と人とのつながりを大切にする
- ・外からの視点や考え方をうまく取り入れる

#### 自然環境の保全と活用

- ・動物の棲める自然環境づくり（サイン設置・落葉樹植樹）
- ・自然にあるものの活用（漂流物・釣り大会・自然観察）
- ・岸ツツジ植樹カヌーツーリング（冬場の四万十川）
- ・モミジまつり（黒尊のブナ林と食の魅力）
- ・地元の支流や小さな川の活用（自然体験学習）

#### 通年楽しめる観光メニューづくり

- ・黒潮の文化を活用したメニューづくり
- ・遍路道ウォーキング（土佐清水市～大月町）
- ・四季の写真（宿毛市ダルマ夕陽）
- ・カツオ船団の出航風景の活用（佐賀町）
- ・四万十川のサイクリング・ウォーキング
- ・グリーンツーリズムの推進
- ・地域の産物や食の提供
- ・施設観光との連携（雨天対策）

#### 人に出会う場の創出と人材の育成

- ・農村・漁村民宿、簡易宿泊所の整備
- ・観光ガイドの育成（地域学習からスタート）
- ・地元の生活名人の登録（得意分野を持つもてなし名人）

#### 幡多広域観光ネットワークづくり

- ・観光ガイドボランティアの相互交流・広域的活用
- ・ホームページの広域的ネットワークの構築
- ・山・川・海の総合的な体験学習プログラムづくり
- ・幡多地域の住民同士の交流促進
- ・地元窓口との連携・ネットワークづくり

自然や環境に配慮した取組みが進められ、地域の資源を生かした通年楽しめる観光メニューが準備されている。地域の「名人」や広域観光ガイドによるネットワークづくりが進んでいる。

45ページは白紙ページです。

第  
5  
章

県としての目標

# 330万人観光を目指そう!

第3章「基本方針と取組み」では、県・市町村・県民・観光事業者・観光関係団体が、向こう5年間に取り組む方向性と具体的な取組みについて、第4章「地域別観光ビジョンの概要」では、観光地づくりを進めていくうえでの7ブロックそれぞれのビジョンの基本的な考え方や展開プラン、地域の5年後の目標について整理をしました。

今回、策定した観光ビジョンが目指す、「持続する観光のまちづくり」を実現していくためには、県民一人ひとりが「観光客をもてなそう」という気持ちを持って、官民互いの関係プレーによる息の長い取組みが必要です。こうしたことから、県として目標を持って、取組みを推進していきます。

高知県の観光の状況を数値で見ると、県外から訪れる観光客は、平成16年には308万人と推計されています（平成15年に県外観光客の入込に関する推計方法を見直しました。詳細については、参考の説明をご覧ください）。基本方針による具体的な取組みを展開することで、新たな魅力の発信やホスピタリティの向上を図ります。このように新たな観光客の誘致やリピーター客の増加に向けた県内全域のさまざまな取組みにより、平成2年には、330万人観光を目指していきます。

平成18年1月から1年間放送される、NHK大河ドラマ「功名が辻」は新たな観光客を獲得する絶好の機会ととらえられます。タイムリーな情報発信や魅力のある事業を展開し、多くの観光客を誘致します。こうした大型キャンペーンの終了後も継続して高知県の魅力を発信し続け、多くの観光客を呼び寄せられるようにすることが今後の課題となります。

## 参考

平成15年に県外観光客入込調査の推計手法の見直しを実施しました。

従来手法（平成15年報告書までの入込客数推計手法）は、交通機関の利用実績を基礎にし、それに一定の係数（県外客利用率等）をかけて県外から本県を訪れる観光客の数（入込客数）を推計してきました。近年における本県の入込客の約4分の3は、自動車（乗用車・観光バス）によっていますが、旧の推計方法では、自動車道、浦戸大橋、足摺スカイラインの交通量を基礎データにしてきました。しかしながら、自動車道の延伸や浦戸大橋の無料化など近年における交通環境の大きな変化により、推計方法の有効性に限界が生じていることから、特に自動車利用者の推計方法を見直し、国道の通行量（国交省による定点観測）や県際間の通行量を基礎データとすることにしました。こうした推計手法の見直しの結果、平成15年の県外観光客入込者数は、旧の推計方法では、510万人ですが、新たな推計方法では、314万人になりました。





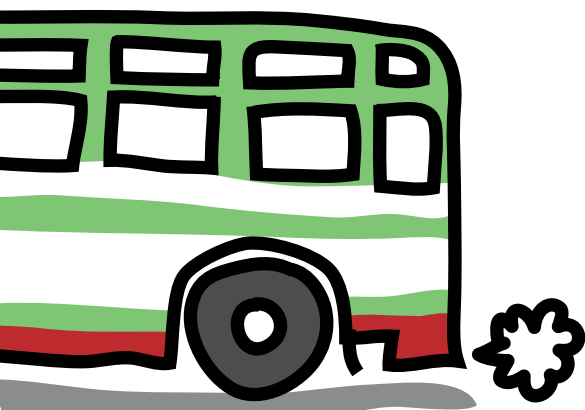
次の5年間に向けて

今回策定しました観光ビジョンは、「あったか高知観光条例」に沿ったものです。観光ビジョンの内容については、概ね5年ごとに見直していきます。

今回の観光ビジョンのテーマは、「地域が元気になること」「地域経済が潤うこと」の2つです。また、県民一人ひとりが「観光振興に一役買おう」という意識を地域からジワジワと盛り上げることを目的としたことから、観光ビジョンの策定においては、地域の住民や観光産業に関わる皆様による議論に重点を置いてきました。その結果として、7ブロックそれぞれから、地域ならではの魅力を生かしたユニークな独自メニューの提案がなされ、早速モニターツアーの開催などが計画され始めています。今後、個々の取組みに磨きを掛けながら観光ビジョンのテーマは実現されていくことでしょう。

しかしながら、観光ビジョンの基本方針のうち、「学校教育、社会教育における学習機会の確保の取組み」「国際観光に関する取組み」「四国4県の連携を促進する取組み」についての具体的な取組みについては、まだまだ議論が十分ではありません。

また、計画期間が5年間という比較的短い期間のため、高知県の玄関口である県都高知市の都市機能の充実や都市美の創造といった「まちづくり」の視点での議論や、「少子・高齢化時代に伴う旅行形態の変化や観光客のニーズの多様化への対応」についても議論が十分でなかったと考えています。こうした課題については、今後、観光ビジョンの実現を図りながら、継続する課題として引き続き検討し、5年後の観光ビジョンに反映させていきます。



次  
資  
料

# 高知県観光ビジョン検討委員会名簿

氏名	役職名	業種
古谷 俊夫	高知県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長	ホテル・旅館
藤本 正孝	高知県観光誘致連絡協議会会長	ホテル・旅館
前田 道雄	高知県バス協会会長代理	バス
楠瀬 賢一	高知県ハイヤー協会会長	ハイヤー
田中 正	日本旅行業協会高知地区会長	旅行業
入交 太二郎	高知県商工会議所連合会会頭	商工関連団体
早川 紀夫	高知県商店街振興組合連合会理事長	商工関連団体
岡内 啓明	土佐経済同友会観光委員長	商工関連団体
西川 博行	高知市産業振興部部長	行政
林 義人	コミュニティセンターうまじ馬路温泉支配人	地域代表（東部）
公文 寛伸	奥ものべを楽しむ会会長	地域代表（南国・香美）
近藤 京子	大川村ふるさと公社専務理事	地域代表（嶺北）
山本 忠雄	土佐観光ガイドボランティア協会会長	地域代表（中央）
黒原 保	越知町観光協会会長	地域代表（仁淀川）
辻本 加生里	中土佐町総務課	地域代表（高幡）
金澤 あけみ	旅館金澤	地域代表（幡多）